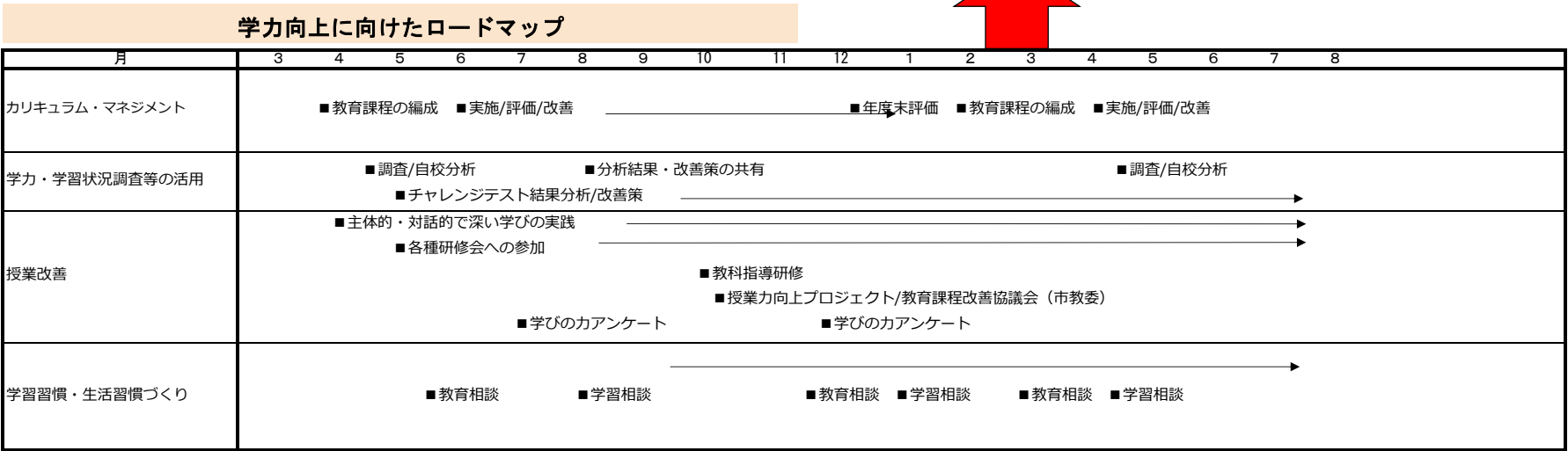


学力調査				質問調査
	成果が見られる設問	課題が見られる設問	課題への主な改善策	
国語 全国・北海道平均を上回っている。	○目的や場面に応じて、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。 ○情報と情報との関係の様々な表し方を理解し、活用することができる。 ○互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、自分の考えをまとめることができる。 ○表現の効果を考え、気持ちが伝わるように描写を工夫することができる。 ○段落相互の関係を明確にし、文章の展開を工夫することができる。 ○交流や助言を踏まえ、文章のよい点や改善点を見いだすことができる。	・文脈に即して漢字を正しく書き、語句を文章の中で使うこと。 ・助動詞や単語の類別・活用など、言葉の特徴や使い方を理解すること。 ・文章の中心的な部分と付加的な部分を区別して捉えること。 ・複数の情報を関連付け、文章の内容や構成を正確に読むこと。 ・読んだ文章を根拠として、自分の考えや解釈を説明すること。 《生徒質問紙より》 国語の勉強が得意 ◎ 国語の勉強は好き ◎ 国語の授業の内容はよくわかる ◎ 国語の授業で学習したことは将来、社会に出たときに役に立つと思う▲	1 語彙・漢字・文法指導の充実 ・漢字を単独で練習するだけでなく、短文や文章の中で使う活動を取り入れる。 ・助動詞、単語の活用、語句の用法を、実際の文章表現と関連付けて指導する。 ・教科書に出てくる語句について、意味、類義語、対義語、使用例を整理させる。 2 根拠を基に読む活動の充実 ・「どの言葉や文を根拠に考えたか」を必ず示す活動を取り入れる。 ・文章の中心部分、具体例、筆者の主張を色分けするなど、文章構造を可視化する。 ・複数の文章や資料を比較し、共通点・相違点を整理する活動を増やす。 3 書く力の成果の継続 ・条件に応じて文章を書く活動を継続する。 ・生徒同士の交流やICTを活用した相互評価を通じて、文章を推敲する機会を確保する。 ・「考え—根拠—具体例—まとめ」の構成を、各教科でも共通して活用する。	◎全国平均より高い ▲全国平均より低い ○肯定的な回答の割合が90%を超える設問 ・授業でICT機器をほぼ毎日使用した ・ICTでプレゼンテーションを作成できる ・自分には、よいところがある ・総合でICTを使い、情報収集・整理・発表ができている ・総合で自ら課題を立て、情報を整理し、発表した ・ICT機器で文章を作成できる ・国語で、互いの立場を尊重して話し合い、考えをまとめた ・インターネットで情報を収集できる ・英語で学んだことは将来役に立つ ・普段の生活で幸せな気持ちになる ・困っている人を進んで助けている ・先生は、よいところを認めてくれている ・話し合いを通じて考えを深め、新しい考えに気付いた ・人の役に立つ人間になりたい ・友達関係に満足している ・いじめは、どんな理由があってもいけない ●肯定的な回答の割合が60%を下回る設問 ・宿題でICTを使い、英語を聞く・話す練習を週3回以上行う◎ ・将来、積極的に英語を使う生活や職業を希望する▲ ・授業外で日常的に英語を使う機会が十分にある◎ ・数学の勉強が得意▲ ・数学の勉強が好き▲ ・英語の勉強が得意▲ ・数学で学んだことを普段の生活で活用できた▲ ・数学で、考え方を説明する活動をよく行った▲ ・国語で、教師がよい点や成長した点を伝えてくれた▲ ・英語の勉強が好き◎ ■「ウェルビーイング等に関する質問」 ・自分には、よいところがある◎ ・先生は、自分のよいところを認めてくれている◎ ・将来の夢や目標を持っている◎ ・人が困っているときは、進んで助けている◎ ・自分と違う意見について考えるのは楽しい◎ ・地域や社会をよくするために何かしてみたい◎ ◆成果 ○国語・英語は北海道・全国平均を上回り、数学も北海道平均を上回った。国語の記述、数学の説明・証明、英語の聞く・読む力に成果が見られた。 ○課題解決への主体的な取組、学んだことを生かした考えの形成、話し合い、振り返りは道・全国を上回った。 ○自己肯定感、教師からの承認感、他者を尊重する態度、友人関係や学校生活への満足度が高い。 ○ICTの使用頻度、文章作成、情報収集、プレゼンテーション、探究学習での活用が道・全国を上回った。 ○平日に1時間以上家庭学習を行う割合が道・全国を上回り、英語の学力と学習意欲にも成果が見られた。 ◆課題 ○国語の語彙・文法、数学の累積度数・反比例、英語の語彙・文法と英文記述に課題がある。 ○「数学が好き・得意・よく分かる」が道・全国を下回り、学力に比べて自信や興味が低い。 ○根拠や理由を明確にし、条件や相手を意識して記述・説明・発表する力を高める必要がある。 ○学習の成果や伸びを生徒が実感できる具体的な振り返りと教師のフィードバックが必要である。 ○ICTを情報の比較・整理・構造化に活用し、家庭学習を自ら計画・実行・改善する力を育てる必要がある。 ○就寝時刻やメディア利用を含め、生活時間全体を自己管理する力に課題がある。
数学 北海道平均を上回ったが、全国平均を下回っている。	○正負の数を用いて、二つの数量の差を求めること。 ○同類項を正しく判断すること。 ○確率を求めること。 ○具体的な数を用いて、予想が成り立つことを式で示すこと。 ○関数のグラフから必要な情報を読み取ること。 ○問題解決の方法を数学的に説明すること。 ○三角形の合同を基に証明すること。 ○証明に必要な仮定を見いだすこと。 ○箱ひげ図と四分位数の対応を理解すること。 ○度数分布多角形を比較し、データの傾向を説明すること。	・累積度数の意味を理解し、度数分布表から累積度数を求めること。 ・反比例の表から、対応する値を求めること。 ・平行であることを示すために必要な角を見いだすこと。 ・文字式を用いて事柄を一般的に説明すること。 ・数学的な説明に必要な条件を過不足なく記述すること。 《生徒質問紙より》 数学の勉強は得意 ▲ 数学の勉強は好き ▲ 数学の授業の内容はよくわかる▲ 数学の授業で学習したことは将来、社会に出たときに役に立つと思う▲	1 基礎的な知識・技能の確実な定着 ・単元導入時に既習事項を確認し、つまづきを早期に把握する。 ・小テスト、振り返り問題、チャレンジテスト等を活用し、短い周期で再確認する。 ・誤答を「計算ミス」「用語の理解不足」「関係の読み違い」などに分類して指導する。 2 データの活用領域の改善 ・度数、累積度数、相対度数を、実際のデータを使って比較させる。 ・表の数値を順に加える操作と、「そこまで何人いるか」という意味を結び付ける。 ・箱ひげ図、ヒストグラム、度数分布多角形を関連付けて扱う。 3 関数領域の改善 ・表・式・グラフの対応関係を繰り返し確認する。 ・比例と反比例の特徴を比較し、変化の仕方を言葉で説明させる。 ・日常生活の具体的な事象を、表やグラフに表す活動を取り入れる。 4 習熟度に応じた指導 ・基礎的な問題を確実に解く学習と、説明・証明に取り組む学習を分けて設定する。 ・途中式や考え方を評価し、「どこまで理解できているか」を生徒自身に把握させる。	
英語 全国・北海道平均を上回っている。	○日常的な会話を聞き、必要な情報を捉えること。 ○発表を聞き、話し手が最も伝えたいことを捉えること。 ○複数の出来事の順序を聞き取ること。 ○文章とグラフを関連付けて読むこと。 ○メールやメッセージを読み、条件に合う情報を選択すること。 ○文章を読み、書き手の主張を捉えること。 ○与えられた情報を基に、過去形を用いて英文を書くこと。 ○条件に従い、理由を伴う英文を書くこと。	・まとまりのある英文を読み、登場人物の気持ちの変化を捉えること。 ・自分の考えと理由を英語で書くこと。 ・指定された語数の中で、体験と感想をまとまりのある英文として書くこと。 ・書く内容を構想し、必要な条件を全て満たすこと。 ・無解答を減らし、最後まで英文を書き切ること。 《生徒質問紙より》 英語の勉強は得意 ▲ 英語の勉強は好き ◎ 英語の授業の内容はよくわかる◎ 英語の授業で学習したことは将来、社会に出たときに役に立つと思う◎	1 聞く・読む・書く活動の関連付け ・聞いたり読んだりした英文を基に、自分の考えを書く活動を取り入れる。 ・教科書本文の構成をモデルにして、内容や表現を一部変えて書かせる。 ・要点、理由、具体例を整理してから英文を書く手順を定着させる。 2 まとまりのある英文を書く指導 ・「主張—理由—具体例」の3段構成を基本形として指導する。 ・15～30語程度の短い英文を書く活動を継続する。 ・書き始めの表現、理由を表す表現、感想を表す表現を蓄積させる。 3 文法・語彙の正確さの向上 ・過去形、現在形、主語と動詞の一致などを、実際の言語活動の中で反復する。 ・生徒の誤答を教材化し、どこを直すと意味が伝わるかを考えさせる。 ・文法的な誤りがあってもまず書かせ、その後に推敲する二段階の指導を行う。 4 無解答を減らす指導 ・全てを正確に書こうとするのではなく、知っている表現を使って伝える姿勢を育てる。 ・語句や文の書き出しを示すなど、段階的な支援を行う。 ・見直し時間を確保し、条件を満たしているかをチェックさせる。	



学力向上に向けた今後の取組
1 根拠を明確にして表現する授業の充実 文章・資料・データを根拠に自分の考えをもち、「考え—理由—具体例—まとめ」の構成で記述・説明・発表する活動を全教科で充実させる。
2 基礎・基本の定着と個に応じた指導 調査で明らかになったつまづきを単元指導に反映し、確認問題、TT・習熟度別指導、補充学習、ICT教材等により、確実な定着を図る。
3 振り返りと具体的なフィードバック 分かったこと、課題、次に取り組むことを振り返る活動を定着させ、教師が考え方や努力、伸びた点を具体的に伝え、学習への自信を高める。
4 ICT活用と自己調整学習の質的向上 ICTを情報の比較・分類・整理・共有に活用するとともに、家庭学習と生活時間を自ら計画・実行・振り返る力を育成する。